

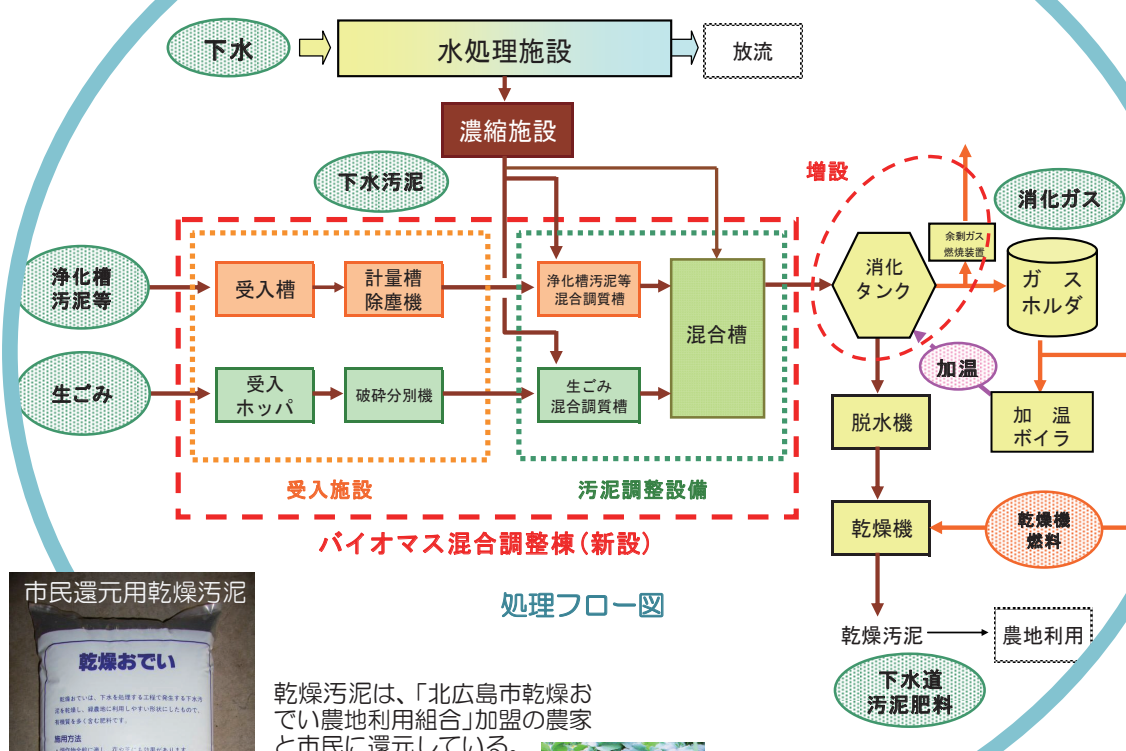
資源のみち部門

北広島下水処理センター（愛称「あしる」）における バイオマス利活用の取り組み

北海道 北広島市



施設の維持管理費が
集約・混合処理の実施により
単独処理に比べて、
85,000千円/年
(約19%)削減



温室効果ガス CO₂ 排出量が
集約・混合処理の実施により
年間 730 トン（約 18%）削減

本市では、下水汚泥に加えて他のバイオマス（家庭系・事業系生ごみ、し尿・浄化槽汚泥等）を集約・混合処理するバイオマス混合調整棟を、下水処理センター敷地内に新たに建設しました。特に家庭系生ごみの混合処理は、全国で初めての施設として、平成23年4月に本格稼働をしています。また、し尿・浄化槽汚泥等は、平成23年度より受入れ設備の整備を進め、平成25年度より受入予定です。処理の過程で発生する消化ガスは、下水処理センター内で消化タンク加温用ボイラや乾燥機の燃料として全て利用し、発生する乾燥汚泥は、肥料として緑農地還元しています。これにより、地球温暖化防止や循環型社会の形成に寄与するものです。また、生ごみ受入れにあたり下水処理センターの愛称を公募し、愛称を「あしる：アイヌ語で新しいの意味」としました。